

研究概要

想像力・創造力を支える 認知過程の解明とその支援

キーワード 認知過程 / 想像力 / 創造力 / 発想支援 / アート

未知のものを想像したり、新しいアイデアを生み出したりする創造性は、特別な人しかいない能力ではなく、見る・聞く・感じる、記憶する、考えるといった誰もが持つ一般的な認知過程から生み出される。こうした想像力・創造力を支える認知過程を実証的な手法により明らかにし、その支援手法を検討することを目的としている。

これまで主として実験的な手法を使って、新たなアイデアの生成を促進する様々な条件(環境要因、課題設定など)について検討を行ってきた。また、美術作品の制作だけでなく、鑑賞過程をも創造的な過程としてとらえ、鑑賞を深めるための手法について研究してきた。今後はさらに社会・文化的観点からもアプローチを試みる。

今後の展開やメッセージ

創造性は、新しいものを生み出す開発者やクリエイターだけではなく、ユーザーが製品の新しい価値や意味に気づいたり、作品鑑賞の際に新鮮な驚きを感じたりより深い体験を得ることに関わっている。研究を通じて、より効果的な製品開発や広告設計などの実用面のみならず、より豊かな文化的生活の支援につなげていきたい。

研究者情報



田中 吉史 教授・博士(心理学)

情報フロンティア学部 心理科学科
所属研究所：感動デザイン工学研究所

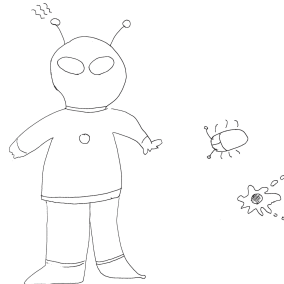
東京都立大学人文学部心理学専攻卒。同大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京都立大学人文学部心理学研究室助手を経て、2005年本学講師就任。准教授を経て、2014年現職。

研究者情報URL

<https://researchmap.jp/read0048515>



知識は我々の生活にとって必要不可欠だが、新たな発想を阻害することもしばしばある(左)。例えば、絵画鑑賞の際には何が書かれているかより、どう書かれているかに着目すると新たな気づきが得られやすくなる(右)。



架空生物想像課題の例。「知能の高い架空の生物」(左)を想像させると人間、「知能の低い生物」(右)では虫などと類似したものを想像してしまう。また、左右対称に描く傾向が強い。



絵画鑑賞課題。描かれている対象物に着目しがちだが、描き方に着目するとより多くの情報に気づくようになる。